

病院に勤務する男性看護師の職場ストレスの実態（その1）

—年代および臨床経験年数別での比較—

古川 陽介¹⁾、前田 貴彦²⁾、上杉 佑也²⁾、平田 研人³⁾、岩下 悠⁴⁾、辻本 雄大⁵⁾、藤本 泰博⁶⁾、田中 喜彦⁷⁾

1)名古屋大学大学院、2)三重県立看護大学、3)天理よろづ相談所病院、4)名古屋大学大学院看護学研究所博士前期課程
5)奈良県立医科大学附属病院、6)聖マリアンナ医科大学病院、7)上尾中央専門学校

研究目的

看護師にとって、職場でのストレスはバーンアウトや離職の原因の一つとなっている。近年、男性看護師も増加しており、一般病棟をはじめ様々な領域で勤務している。同時に、男性看護師もまた職場でのストレスを抱えていることは容易に予想できる。そこで今回、男女での職場ストレス傾向の相違や支援を検討する基礎資料にも活用できると考え、男性看護師の職場ストレスについて、年代別および臨床経験年数別での特徴や傾向を明らかにすることを目的とした。

方法

対象：全国の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する施設から層化無作為抽出した950病院の内、本研究に協力の得られた422病院に勤務する男性看護師8,105名とした。

調査方法：平成27年10月～平成28年3月に、無記名の選択式自記式質問紙調査を実施した。

主な調査内容：年齢や臨床経験年数、職場ストレス尺度（以下：尺度とする）を測定した。この尺度は、【業務遂行に伴う重責（6項目）】【上司・同僚との葛藤（5項目）】【多忙・業務過多（4項目）】【患者ケアに関する葛藤（4項目）】【看護に対する無力感（3項目）】の5の下位尺度で構成され、評定は、「ない」の1から「いつもある」の5のリッカートスケールで、得点（22-110）が高いほどストレスの度合いが高いことを示す。

分析方法：対象者の年代別（20歳代、30歳代、40歳代、50歳代以上の4群）および臨床経験年数別（1-2年目、3-5年目、6-10年目、11年目以上の4群）に分け、各項目の無回答を除き、一元配置分散分析（多重比較）を行った。

倫理的配慮

本研究は、研究代表者が所属する倫理審査会の承認を得て実施した。なお、質問紙の返送をもって同意とみなした。また、尺度の使用にあたっては、開発者の承諾を得た。

結果

回答者の概要

回答者：3,224名（回収率39.8%）

有効回答：3,216名

平均年齢：33.81±8.05歳

平均臨床経験年数：9.98±7.35歳

病院所在地

中部地方 844名（26.2%）

近畿地方 707名（22.0%）

関東地方 642名（20.0%）

病床数

300-500床未満 1,224名（38.1%）

500-700床未満 717名（22.3%）

150-300床未満 686名（21.3%）

職場ストレス尺度質問項目

【業務遂行に伴う重責 6項目】

- 患者の生命をあずかることに重圧感を感じる
- 患者へのケアに関して、ミスしないかと不安を感じる
- 仕事に関する知識不足により自信をなくす
- 業務上のミスにより自信をなくす
- 患者と信頼関係が築けないと感じる
- 特殊な器具の操作や機能がはっきりしない

【上司・同僚との葛藤 5項目】

- 自分の気持ちを上司から理解してもらえないと感じる
- 上司と考え方が食い違う
- ナースの間で患者のケアについて意見が食い違う
- スタッフの協力が得られず、看護の継続がなかなかできない
- 病棟に理解しあえないナースがいる

【多忙・業務過多 4項目】

- 忙しすぎて十分な看護ができないと感じる
- 自分の職場に十分な人手がない
- ハードな勤務が続く
- 患者の気持ちを十分に支えられていないと感じる

【患者ケアに関する葛藤 4項目】

- 患者が苦しんでいるのを見る
- 悲観的な訴えを繰り返す患者をケアする
- 不安の訴えが多い患者をケアする
- 医療者不信のある患者をケアする

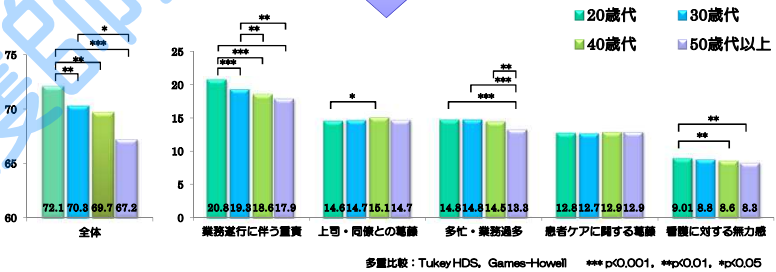
【看護に対する無力感 3項目】

- 看護の無力感を感じる
- ケアによる効果が、患者に見られたいと感じる
- ケアの手ごたえが感じられたいと感じる

福田広美、井田政則：心理測定尺度集VI、職場ストレス尺度、291-295、サイエンス社、東京、2012。

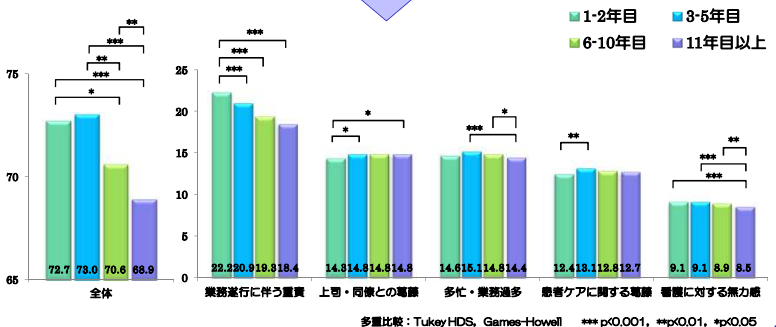
年代別比較

- 尺度全体合計の平均値は、20代が最も高く、年代が上がるにつれ低下していた。
- 年代別では、20歳代は他の年代より、30歳代は50歳代以上より有意に高かった。下位尺度に関して
- 【業務遂行に伴う重責】は、20歳代、30歳代とも以降の年代より有意に高かった。
- 【上司・同僚との葛藤】は、20歳代に比べ40歳代で有意に高かった。
- 【多忙・業務過多】は、50歳代以上に比べ他の全年代で有意に高かった。
- 【看護に対する無力感】は、20歳代が40歳代以降に比べ有意に高かった。



経験年数別比較

- 尺度全体合計の平均値は、3-5年目が最も高く、11年目以上が最も低かった。
- 経験年数別では、1-2年目および3-5年目の平均とも6年目以降に比べ有意に高く、6-10年目は、11年目以上より有意に高かった。下位尺度に関して
- それぞれの比較では、5の下位尺度全てにおいて、経験年数別での有意差があった。



考察

若年層や経験年数が短い群で、職場ストレスが高い傾向にあり、男性看護師の経験値が影響していることが示唆された。また、年代が上がるにつれ病棟内や院内での役割および調整を担う機会も増えるため【上司・同僚との葛藤】の得点が高かったと推察する。加えて、【上司・同僚との葛藤】や【看護に対する無力感】では、男女の思考の違いや女性患者にケアを断られるといった、男性看護師ゆえの要因も影響している可能性がある。